

令和5年北海道森づくり研究成果発表会について

企画調整部普及グループ 主査（普及）原田 明彦

道総研森林研究本部（林業試験場・林産試験場）では、森林整備や木材利用に関する研究成果、技術、活動事例をわかりやすく紹介し、本道における森づくりや木材利用に関する知識を深め、技術の向上を図ることを目的として、北海道水産林務部と連携して北海道森づくり研究成果発表会を毎年開催しております。

昨年に引き続き本年も令和5年6月1日（木）から令和5年6月30日（金）まで、公開期間限定のWeb配信で研究成果を紹介しました。

発表会では、一般の部では国・道の行政機関及び国の研究機関から、口頭発表4件、ポスター発表2件の計6件、道総研森林研究本部の部では、3つのテーマ「1 森林資源の循環利用のために～林業技術～」，「2 森林資源の循環利用のために～木材利用技術～」，「3 森の役割と森からの恵み」に沿って口頭発表8件、ポスター発表16件の計24件、全体として30件の発表を行いました。

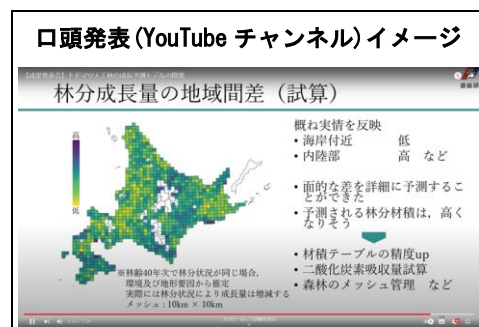
開催方法は、口頭発表については、より多くの皆様にご覧いただき、研究成果の普及と新たな研究ニーズの把握に繋げることを目的として開設したYouTubeチャンネルを活用し、道総研森林研究本部の研究概要を示したダイジェスト版動画とあわせて紹介しました。ポスター発表についてはホームページで公開しました。

林業試験場から紹介した口頭発表課題は次の3件です。

- 下刈りスケジュールを立案するための支援ツールを作りました クリーンラーチ編
- トドマツ人工林の成長量予測モデルの開発
- クリーンラーチ挿し木苗の増産技術の開発

また、ポスター発表課題は次の8件です。

- カラマツ人工林の大量枯死と衰退要因
- 野ねずみ発生予察調査で確認された野ネズミの誤認事例
- カラマツと比較したクリーンラーチ等の病害発生リスク
- 新設採種園におけるクリーンラーチ種子の評価：2022年産種子の品質
- 薬剤散布によるカラマツ伸長停止方法
- 伐採後の森林に生息・生育する生物に対する保持林業の効果
- 保持林業の導入による溪流生態系への影響緩和－伐採後のモニタリング結果より－
- 伐採前後の森林溪流の水量・水質の変化から見る保持林業の評価



本号では、上記全11件の課題を掲載しますので、ぜひご一読ください。